

栃木県公共事業事前評価 自己評価書【県土整備部 道路事業】

事業の概要

担当課：道路整備課

事業名	快適で安全な道づくり事業		事業主体	栃木県
事業箇所	一般県道西田井二宮線 東大島工区 真岡市小林～東大島			
事業の目的、事業発案の経緯・背景 一般県道西田井二宮線は、真岡市西田井を起点とし、真岡市久下田に至る主要な幹線道路であるとともに、一般県道高田筑西線を経由して茨城県筑西市を結ぶ地域間の交流・連携を支える重要な路線である。 また、本事業箇所は山前小学校、物部小学校の通学路に指定されているとともに、近隣の中学生も通学で利用するなど、地域住民の生活道路としても重要な路線である。 しかしながら、現道は幅員が狭く、接続する一般県道真岡岩瀬線沿線には採石場があることから大型車の通行も多いため、車両同士のすれ違いが困難なうえ、歩道が未整備なことから通学児童をはじめとする歩行者、自転車の安全が確保されていない。 このため、現道沿線の土地利用状況や経済性、施工性等を比較検討した結果、本事業箇所においてバイパスを整備することにより、地域間の交流・連携機能の強化を図るとともに、歩行者、自転車等の安全性の向上を図るものである。				
事業内容 ・山前小学校南交差点と本事業箇所南側の整備済箇所とを結ぶ現道東側のバイパスとする。 ・車線数は、計画交通量に基づき2車線とする。 ・総延長：3,200m ・計画交通量：5,000台/日 ・道路区分：第3種第3級 ・車線数：2車線 ・標準幅員：11.5m（車道3.0m×2、自転車通行帯1.5m×2、歩道2.5m×1（西側））				
事業予定期間	令和4年度～令和13年度（予定）	事業見込額及び内訳	総事業費	約20億円
	【事業スケジュール（予定）】 用地調査：令和4年度～ 用地取得：令和4年度～令和9年度 工事実施：令和5年度～令和13年度		事業費内訳	測量設計費：約 2億円 用地補償費：約 9億円 工事費：約 9億円
			財源内訳	国費：50% 県費：50%
事業概要図 別紙記載				
県計画への位置付け ・「県土づくりプラン2021」：重点施策「誰もが安全で安心して利用できる道づくり」に位置づけられている。 ・「宇都宮都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」：地域拠点地区、生活拠点地区の形成や、拠点地区間及び周辺地域との移動や連携の促進を図る「都市内連携軸」に位置づけられている。				
他計画・他事業との関連 ・「真岡市都市計画マスタープラン」：周辺地域間を連絡し、地域の交流・連携を促進する地域交流軸として「補助幹線道路」に位置づけられている。 ・平成2年度～平成26年度まで実施されていた県営圃場整備事業（物井、小貝川西Ⅱ期）において、道路用地の一部が確保されている。				

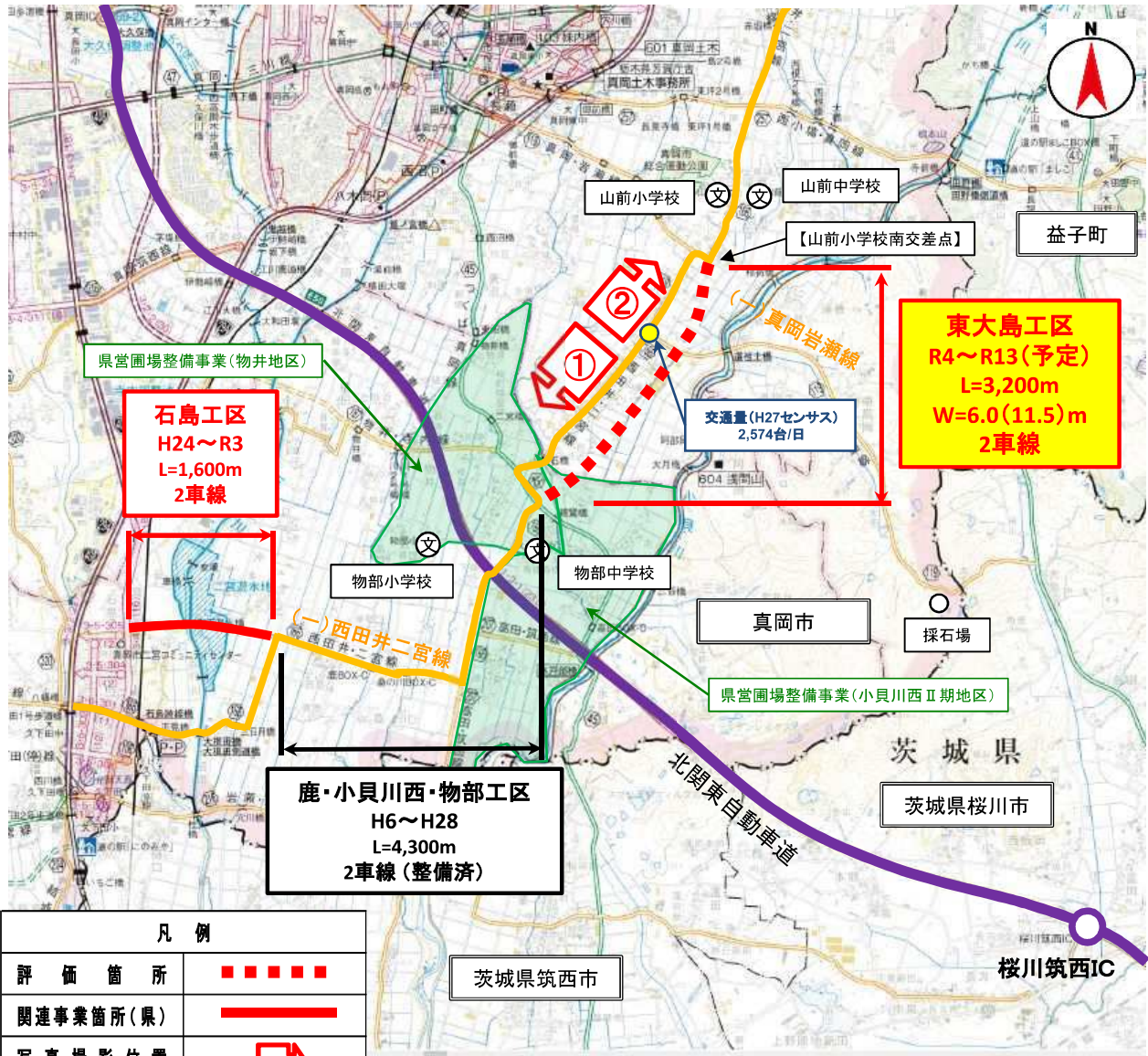
事業の評価

評 価 の 視 点	1. 事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間の交流・連携機能の強化を図るため、本路線の整備が必要である。 ・現道は、幅員が狭小で通行車両同士のすれ違いが困難であることから、快適で円滑な交通を確保する必要がある。 ・通学児童をはじめとする歩行者の安全性の向上を図る必要がある。 ・交通事故を抑制するため、バイパス整備により大型車などの通過交通を現道から排除する必要がある。
	2. 事業の適時性 (今事業に着手する理由等)	<ul style="list-style-type: none"> ・同路線終点付近の石島工区が令和3年度末に供用を予定していることから、道路ネットワークとしての効果を早期に発現させるため、整備に着手する必要がある。
	3. 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> ・ルートの設定に当たっては、周辺地域への影響、施工性、経済性などを総合的に比較検討し、山前小学校南交差点と本事業区間南側の整備済箇所とを結ぶ現道東側のバイパスを最適案に選定した。
	4. 事業手法の適切性 (県が事業主体となる理由等)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般県道西田井二宮線のバイパス道路であり、道路管理者として県が事業を実施する。
	5. 事業により予想される効果及び影響 <ul style="list-style-type: none"> ・機能的な効果 ・経済的な効果 ・他計画、他事業への波及効果 ・環境への影響など 	<ul style="list-style-type: none"> ○投資効果 <ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比 (B/C) 2.0 ・総便益 (B) 33.4億円 ※供用後50年間の効果を金銭に換算したもの 走行時間短縮(29.7億円)、走行経費減少(3.3億円)、交通事故減少(0.4億円) ・総費用 (C) 16.4億円 ※建設費と供用後50年間の維持管理費を含む ○道路ネットワークが強化され、地域間の交流・連携機能の強化が図られる。 ○自転車を含む通行車両の安全で円滑な道路交通が確保される。 ○歩道整備により、児童や歩行者の安全性向上が図られる。 ○現道交通がバイパスに転換されることで、現道沿線の安全性向上が図られる。 ○災害時の救援活動や物資輸送を支える道路ネットワークの機能強化が図られる。
	6. 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線水路の横断部については、橋梁や函渠などの構造を比較検討し、コスト縮減を図る。 ・再生材の利用や、建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。
事業の対応方針(案)		本事業については、令和4年度より着手する。

事業概要図

至 東北自動車道

至 国道294号



至 茨城県水戸市

凡例	
評価箇所	■■■■■
関連事業箇所(県)	—————
写真撮影位置	📷

至 国道50号

【標準横断図】



①道路が狭く、円滑な通行に支障（現道）



②歩道が無く、通学児童が危険

